

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々月の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

お濃茶は孫のお手前秋の風

八幡台4丁目 羽場 京子

●特選の選評 茶道は楽しくて、面白くて、

奥深いもの。いつか孫のお点前も薄茶から、お茶事の濃茶席のご亭主を勤めるまでになった。可愛い孫のお点前で濃茶の正客席に居る作者が目に見える一句。下五の秋の風が爽やかな中に厳かな日本文化の伝統を引き継いでいる孫様に拍手を送りたい。

俳句

入選



加茂都紀女 先生

真夜中に密談中の冷蔵庫

宝木本町 村上 美智子

新米の湯気と香りに卵かけ

平松本町 飯島 敏夫

自転車の籠に愛犬秋の風

日の出 大島 康正

サンタルチア原語で歌ふ秋暑かな

江曾島本町 中村 元吉

特選

鳳仙花咲きつたを伸ばしゆき
実を弾く音晩夏の真昼

下岡本町 高尾 信尚

●特選の選評 選者の私は晩生だったせいか、子どもを産んでも背が伸びていた

ようだが、今年の夏の長さ、異常な暑さにおいてもこの歌に共感を持たざるにはいられない。鳳仙花の一年草たる一生を見事に歌い上げた。生き急ぐ者へのわびしさも感じる。

短歌

入選



藤本 都先生

これ以上記録は要らぬ心地して
カメラを持たぬ旅行が増える

野沢町 鈴木 孝男

甲子園「大社高校」勝ち進む
出雲の神の御加護のもとに

下田原町 和田 文男

手放せば思い出さへも消えそうな
断捨離という言葉のひびき

緑2丁目 岩田 豊子

その昔君に出会って恋をした
アポロが月に着いた夏の日

埴田4丁目 齋藤 美恵子

特選

背に止まる螢はもしやあなたの

埴田 西嶋 哲夫

●特選の選評 近しい者の初盆のために

久々の帰省。古里の夜、庭先に一匹のホタルがいつしか親し気に近寄って来て肩に止まる。これはもしかして亡くなったあなたかも知れない。そんな気持ちにさせるホタルの動作や表情が亡き人への思慕を募らせる。

川柳

入選



佐藤隆久 先生

雑草が夏の畑を買いしめる

氷室町 関 ふさ子

人生をたかがスマホに支配され

若松原4丁目 菊地 巳代吉

雷を追い抜き走る救急車

清原台6丁目 小太刀 節子

ふるさとの母小さくて吾亦紅

城東1丁目 網川 光江

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日(消印有効)までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市HPをご覧ください。

ID 1022877



▲市HP

表

裏

住所・氏名・壇名
ふりがな
宇都宮市役所
広報広聴課

作品への思い
作品への思い
作品への思い